

2

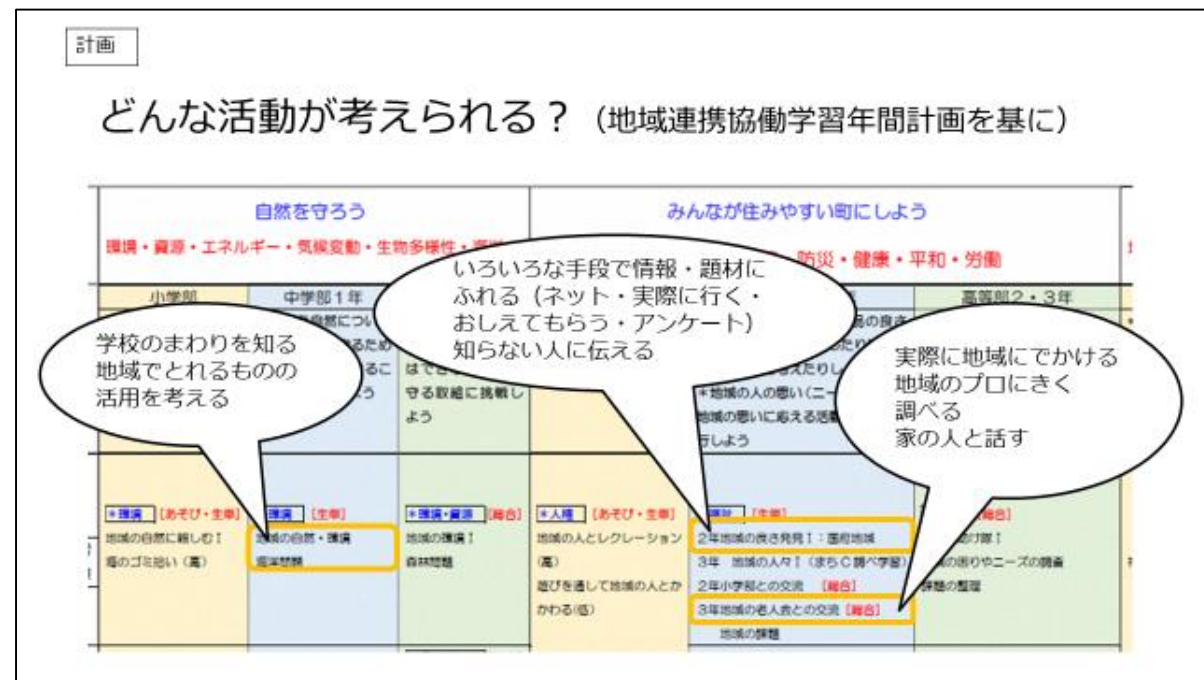
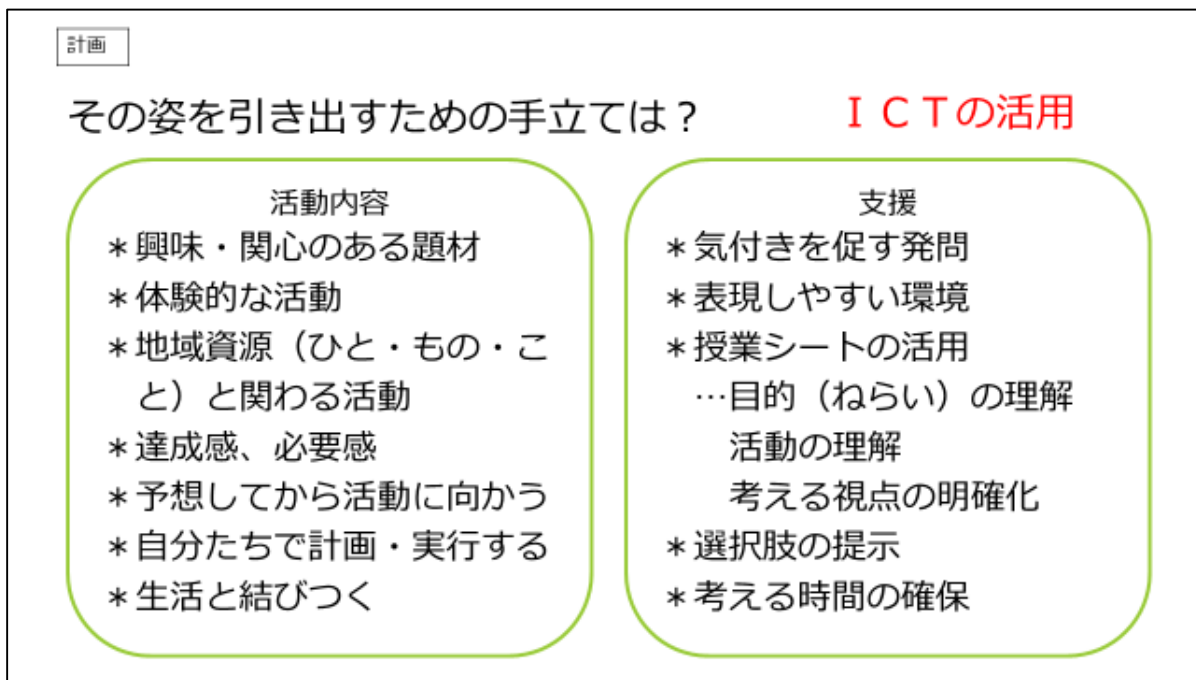
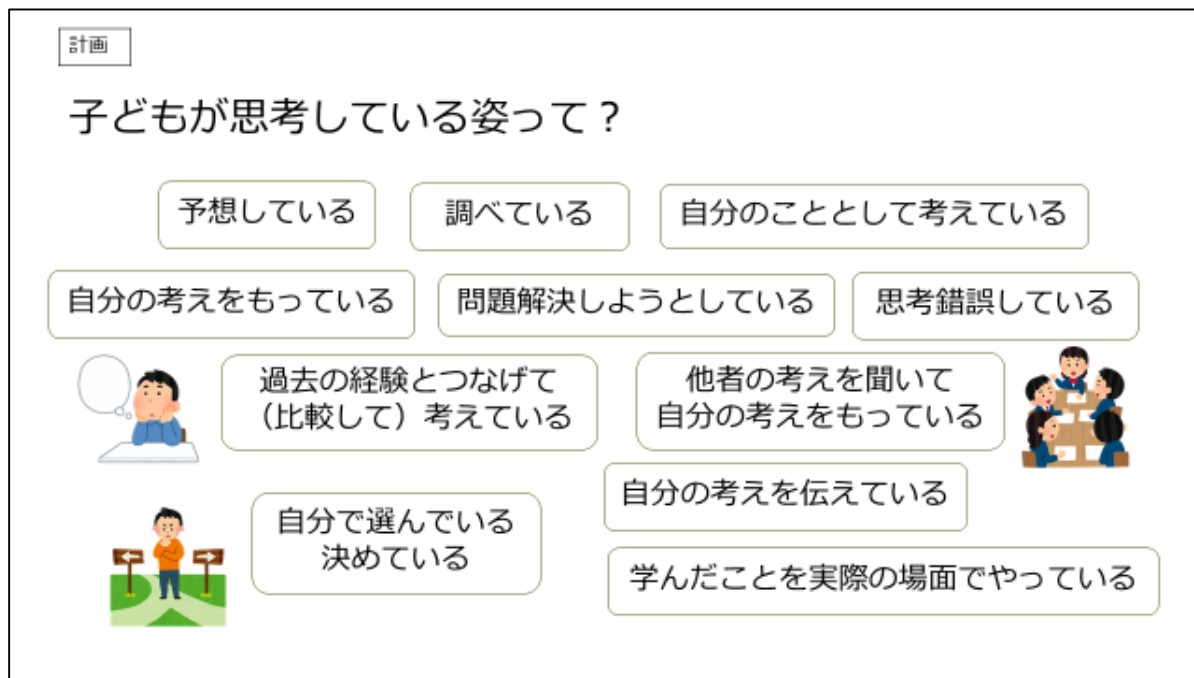
中学部の取組

協働力

中学部

地域のためにできることを考え、気持ちや考えを伝え合いながら、友だちや地域の人と協力して取り組む。

学部研記録より



単元構想シートを基に授業づくり

「協働力」	
学部の目標 *地域のためにできることを考え、気持ちや考えを伝え合いながら、友だちや地域の人と協力して取り組む。 取組の方向性 *身近な自然について調べ、自然を守るために自分たちができることを考え行動しよう	
単元計画（実践1）	
【単元名】	
【単元の主題】	
【単元の目標】	
ESDを通じた深い学び（持続可能な社会づくりの構成概念） aI 多様性（いろいろある） aII 相互性（関わりあっている） bI 有限性（限りがある） aIII 公平性（一人一人大切に） aIV 持続性（力を分け合って） bII 責任性（責任をもち）	
【児童生徒の思考を深めるためのしがけ】	
【地域にとってのメリット】	
【単元計画】	

ESDをとおして…

* 「持続可能な社会づくり」
のための構成概念

学部として共通して行う【学部重点目標より】

- ・ 授業の展開をパターン化する
きづく→調べる→できることを考える→
やってみる
- ・ 調べたり、考えたり、話しあったりする活動
を設定する
- ・ ESDの目的を共有し、互いの思いを伝え合
う場を設定する
- ・ 授業シートを活用する

① 中1グループ



まちたんけん



板わかめづくりたいけん



わかめ料理

生活単元学習

「学校のまわりの自然と環境」
～見て・知って・つたえよう～



生徒の実態

強み

- 体験的な活動に意欲的に取り組むことができる。
- 体験をもとに知識を増やしたり自分のこととして考えたりすることができる。
- 友だち同士で声をかけ合って活動することができる。

課題

- △学校のまわりの地域のことを知らない。
- △地域の方との活動の経験が少ない。
- △経験したことのない事柄やイメージがしにくい活動について不安を感じる生徒もいる。

単元の主題

- ・ 学校のまわりのまちの様子、地域の海のことを知る。
- ・ 知ったこと分かったことをもとに自分のできそうなことを考える。

多様性

- ・ いろいろな建物、地形、場所がある

有限性

- ・ 海でとれるものは時期や量がきめられている

責任性

- ・ すてられるものを有効活用する

活動内容

第1次 **学校のまわりをたんけんしよう**

第2次 **唐鐘漁港で板わかめづくり体験をしよう**

- ・ 漁師さんにインタビュー
- ・ 板わかめづくり体験（干す・袋詰め）

第3次 **わかめを使った料理をしよう**

- ・ 自分でレシピを調べて作ろう
- ・ 地域の方に教えてもらおう



ふりかえり

成果

- 防災学習と関連させてまちたんけんをしたことで、生徒が学んだことを結びつけて活動することができた。
- 漁師さんと事前にインタビュー内容を打ち合わせしておくことで、生徒がわかめの収穫量が減っていることやその理由等の環境や資源の問題につなげて考えることができ、自分の生活にも結びつけやすかった。
- 体験⇒調理につなげたことで、板わかめにできないわかめの存在を思い出し、有効利用を考えやすかった。
- 一人ずつに役割をつくったりグループ活動を設定したりすることで、自分の役割を果たしたり友だちと協力したりして活動することができた。

課題

- △まちたんけんでは、たんけんする範囲を広く設定したため、押さえが不十分の場所があった。
- △地域の方との活動が初めてで、適切なふるまいができない様子が見られた。
- △学習を踏まえて、自分にできることを具体的に考えにくい生徒もいた。

今後に向けて

- ・各教科等の指導とも関連をさせて授業づくりをしていきたい。（国語、理科）
- ・先端技術トライアルを活用して、同じような地理的環境の同世代の生徒との学習交流の機会をつくることで意欲や関心を高めていきたい。いろいろな考えに触れることで、様々な“多様性”を学んでほしい。
- ・自然体験学習では〔多様性〕〔有限性〕に加えて〔相互性〕の視点で学びを深めていきたい。

② 中2グループ



生活単元学習

「地域のいいね👍伝えるンジャー」

生徒の実態

強み

- 興味・関心のある活動、体験的な活動に特に進んで取り組む。
- 実際に経験したことから自分の考えや思いをもつことができる。
- 相手意識をもって活動できる。

課題

- △思考が断片的になりやすく、広がりにくい。
- △目的に応じて情報を読み取ったり、情報を関連付けて理解したりする力が弱い。
- △自分の考えを整理してまとめたり、言葉で表現したりすることが苦手である。

単元の主題

**地域の特色やよさをしらべ
まだ知らない人に知ってもらうために
伝えることや伝え方を考えよう**

多様性

いろいろな地形・場所が
ある
地域によってちがう

相互性

歴史がある
昔からつながっている

活動内容

第1次 **自分たちの住む地域の様子を調べよう**

浜田市・江津市の土地の様子、公共施設、文化財など

第2次 **地域のプロに教えてもらおう**

浜田市観光ボランティアガイドによる案内（石見畳ヶ浦・石見国分寺跡）

第3次 **県大生に伝える準備をしよう**

伝えたいこと「いいね👍」、伝える方法

ポスター、話す、劇
動画・Googleストリート
ビューなど

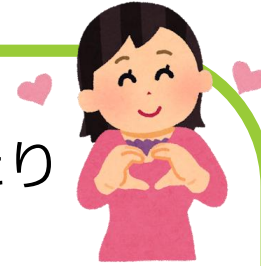
第4次 **県大生に伝えよう**

浜田市・江津市・畳ヶ浦・石見国分寺跡の紹介、畳ヶ浦の案内

ふりかえり

成果

- いろいろな方法で情報を得ることで、地域について知ったり理解したりできた。自分のいいねを考えることができた
- 事前に確認したり改善する活動を設定したりすることで、ふるまいや分かりやすい発表など相手意識をもったかかわりができた。
- グループ活動を設定することで、考えを伝え合いながら協力して活動していた。教員の発問や仲介で、新たな視点での考えを言ったり、やりとりを深めたりできた。
- 生徒が言いたいことややりたいことを取り入れることで、進んで活動していた。「伝える」という設定で、意欲を高めていた。
- 伝えた後に直接評価を聞くことで、役立ち感や自分たちのがんばりを感じていた。



課題

- △主題の整理
- △考えを広げる・深める手立て（環境設定、活動）
- △活動に向かいにくい生徒がいた
- △書く量、情報量が多かった

今後に向けて

- ・ E S D の視点を明確にした授業づくり（課題に気付く・解決のための展開、活動内容、発問）。
- ・ 対話を取り入れ、考えを広げる深める手立て（対話できる環境、I C T の活用）。
- ・ 実態に応じた指導（学習内容、教材、学び方）。

③ 中3グループ



総合的な学習の時間

「 地域の高齢者問題 自分たちにできること
～ハッピーつながるグループ～ 」

生徒の実態

強み

- 初対面の人とも積極的にかかわれる。
- 体験的な活動に興味関心をもち、意欲的に取り組む。
- 学んだことを思い出したり、活かしたりして取り組もうとする姿が見られる。

課題

- △自分中心に考えがちで、他者の立場に立って考えることが苦手。
- △語彙不足や表現力の未熟さのため、伝わりにくさがある。
- △生徒間の対人関係に課題があり、グループ活動が制限される。

単元の主題

地域のお年寄りが困っていることを知り、一緒に楽しめることを考え、やってみよう！

多様性

お年寄りの暮らし方
自分たちとは違う生活

公平性

年齢に関係なく誰もが等しく幸せに暮らすことができる

連携性

支えあって生きている

活動内容

- 第1次 **まち作りセンターでの話し合いをもとに、高齢者の方々に対して自分たちのできることを考え、企画する。**
- 第2次 **係に分かれ、準備をする。**
- 第3次 **「しまや」高齢者サロンの方と交流する。**
- 第4次 **学習のまとめ、今後できることを考える。**

ふりかえり

成果

- 事前の話し合いや実際に交流することで地域の高齢者のことを知ることができた。（知技）
- 企画の条件を確認しながらみんなの意見を比較検討できた。（思判表）
- 自分が提案した企画の係を担当することで主体的に準備や運営ができた。（学・人）

課題

- △事前学習の段階で高齢者の方と会えるよりもイメージが持てた。
- △地域というよりは一般の高齢者の問題に終始してしまった。
- △「地域の課題」というところに落とし込めるともう少しやりがいにつながる。

今後に向けて

- ・ 社会福祉協議会とのつながりを持ち、地域の高齢者課題に焦点を当てていく。
- ・ 「連携性」「相互性」の視点から、課題に気づき、自分たちにできることを考えていくしかけを準備する。
- ・ 自分たちの取組が誰かの役に立っているという自己有用感につながるよう働きかけていく。

主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ● 学ぶことに興味や関心を持つ ● 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける ● 見通しをもつ ● 粘り強く取り組む ● 自己の学習活動を振り返って次につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既習事項を振り返る ● 具体物を提示して引きつける ● 子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する ● 子供が自らめあてをつかむようにする ● 学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる ● 子供が自分の考えを持つようにする ● 子供の思考を見守る ● 子供の思考に即して授業展開を考える ● 子供の考えを生かしてまとめる ● その日の学びを振り返る ● 新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める ● 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ● 地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ● 先哲の考え方を手掛かりに考える 	<ul style="list-style-type: none"> ● 思考を交流させる ● 交流を通じて思考を広げる ● 協働して問題解決する ● 板書や発問で教師が子供の学びを引き出す
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ● 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる ● 知識を相互に関連付けてより深く理解する ● 情報を精査して考えを形成する ● 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資質・能力を焦点化する（つきたい力を明確にする） ● 単元や各授業の目標を把握する ● ねらいを達成した子供の姿を具体化する ● 教材の価値を把握する ● 単元及び各時間の計画を立てる ● 目標の達成状況を評価する

- 資質・能力を焦点化する
(つきたい力を明確にする)
- 単元や各授業の目標を把握する
- ねらいを達成した子供の姿を具体化する
- 教材の価値を把握する
- 単元及び各時間の計画を立てる
- 目標の達成状況を評価する

＊ 「持続可能な社会づくり」
のための構成概念
＊ ESDで重視する能力・態度

今後に向けて（実践1からの改善）

ICTの活用

- 教科指導の効果を高める
情報活用能力の育成を図る
- 障害～困難さを改善・克服する
（自立活動の視点）

* ESDの視点を明確にする
（課題に気付く、解決するための手立て）

* 実態に応じた学習の検討
（個人？集団？教材・内容・方法は？） **個別最適な学び**

* 多様な他者とのかかわり、よさを生かして学びあい
→ 動機付け、多様性の理解、考えを広げる深める、学びの実感

* 各教科等との関連 **協働的な学び**

単元構想シートを基に授業づくり

「協働力」 ←

学部の目標
 * 地域のためにできることを考え、気持ちや考えを伝え合いながら、友だちや地域の人と協力して取り組む。
 取組の方向性
 * 地域連携協働計画で提示されている各学年に応じたもの

単元計画 (実践2)

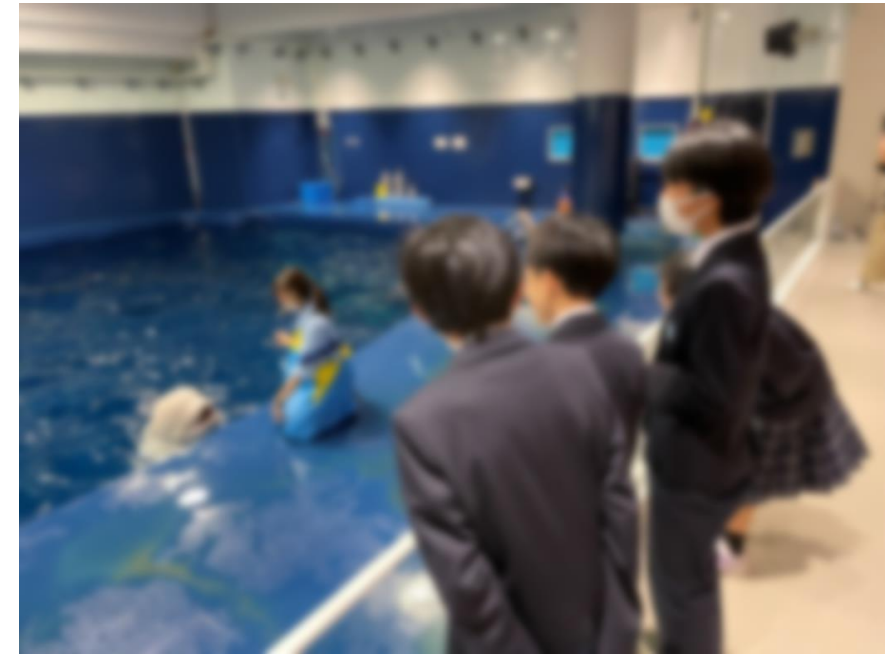
【単元名】	ESDのカテゴリー
【単元の主題】	<input type="checkbox"/> 多様性 (いろいろなものがある) <input type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている) <input type="checkbox"/> 有用性 (役にたっている) <input type="checkbox"/> 公平性 (一人一人を大切に) <input type="checkbox"/> 協働性 (力を合わせて) <input type="checkbox"/> 責任性 (責任をもって)
【単元の目標】	<input type="checkbox"/> 批判的に考える力 <input type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 <input type="checkbox"/> 多面的、総合的に考える力 <input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 <input type="checkbox"/> 他者と協力を得る力 <input type="checkbox"/> 関心・関与を深める力
【児童生徒の思考を深めるためのしかけ】	
【単元計画】	

E S Dの視点を明確に・・・
 * 構成概念
 * **重視する能力・態度**

学部として共通して行う【学部重点目標より】

- ・ 授業の展開をパターン化する
 - ①知る②気付く③調べる・考える④行動する⑤発信する
 - ⑥自分事として考える・自分の生活につなげる
- ・ 調べたり、考えたり、話しあったりする活動を設定する
- ・ E S Dの目的を共有し、互いの思いを伝え合う場を設定する
- ・ 授業シートを活用する

① 中1グループ



総合的な学習の時間
「自然体験学習

海のしぜんといきもの」

単元の主題 ESDのカテゴリー：自然を守ろう（環境・生物多様性・海洋）

海の自然と生き物

しろう（海の自然や生き物のこと）

まもろう（そのために できることを

かんがえよう）



多様性

いろいろな生き物
や自然環境がある

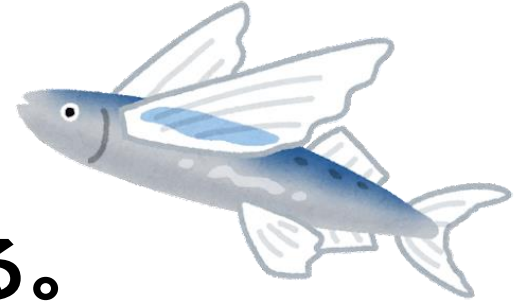
相互性

自然環境と生き物
はかかわりあって
生きている

有限性

資源には限りがあり
自然を守るためには
行動する必要がある

単元の目標



- **(知 力)** 地域の自然や生き物について理解を深める。
- **(知 力)** 活動中での気づきや疑問などをお互いに伝え合いながら、考えを広げたり深めたりする。
- **(協働力)** 自分の役割を果たしながら友達と協力して活動したり地域や自然のためにできることをやってみようという気持ちをもったりする。

批判的に考える力

他者と協力する態度

進んで参加する態度

活動内容

第1次 隠岐養護学校の取組を聞こう

- ・ 隠岐養護学校中学部との交流 海洋ごみを加工した取り組みを教えてもらう

第2次 地域の海や自然を知ろう①

- ・ 国府海岸の自然観察 オンライン中継の練習
- ・ 国府海岸の自然についてスライドにまとめる、発表練習
- ・ 隠岐養護学校中学部にむけて発表

第3次 地域の海や自然を知ろう②

- ・ 鯨が浜の自然観察 オンライン中継
- ・ 鯨が浜の自然についてスライドにまとめる、発表練習
- ・ アクアス合同学習への参加

第4次 自然をまもるためにできることをかんがえよう





思考を深めるための手立て

- 導入では、**1学期の学習や理科の学習の振り返り**から行い、これまで学習してきたことが関連していることに気づけるようにした。
- 地域の海に出かけ自然観察をするなど**本物に触れる活動**を設定した。
- 自分の考えを整理したり相手に伝わりやすくするための工夫を考えたりできるように、自然観察の後に**気づきなどをスライドにまとめる活動**を設定した。
- 他地域の海の様子を知ったり他の障がい種の生徒と関わったりすることができるように、**ICTを活用した合同学習**を設定した。
- スライドづくりや中継練習では、**具体的なポイントを提示**し、「相手」を意識しながら活動できるようにした。

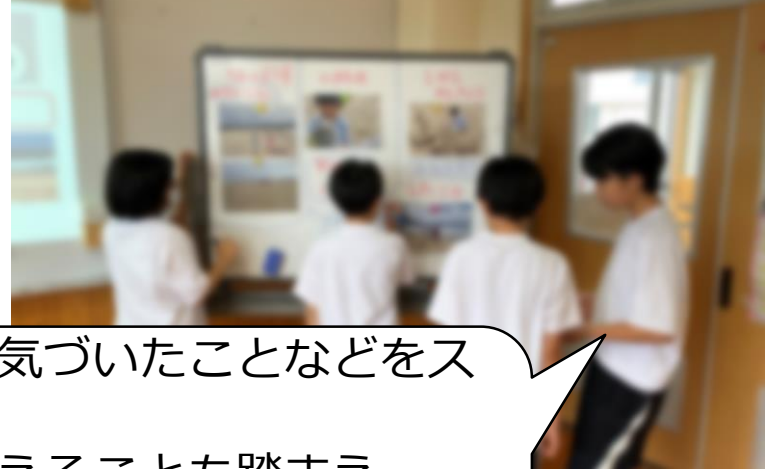
活動の様子



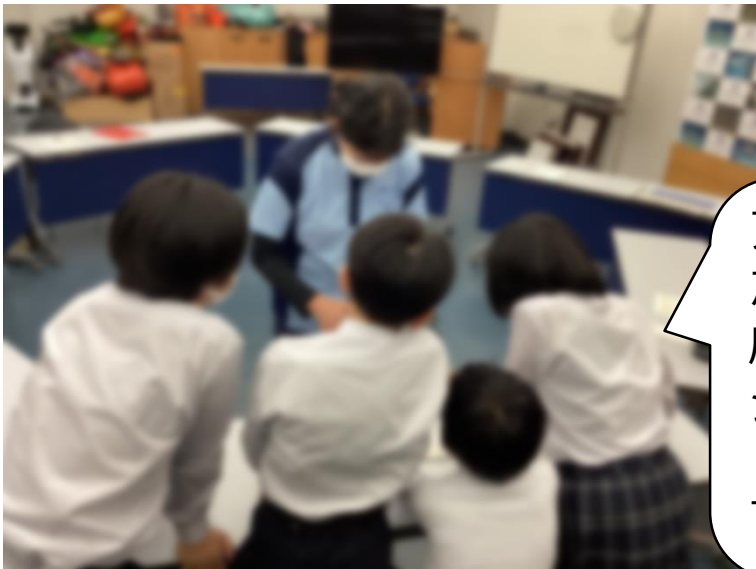
国府海岸では、自然観察やプラゴミを拾ったりしました。



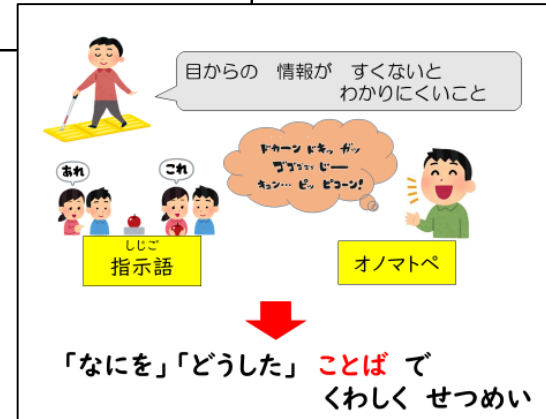
海での活動の後には、見つけたことや気づいたことなどをスライドにまとめました。オンラインで他の支援学校の生徒に伝えることも踏まえ、「伝わりやすさ」を意識しながらスライドづくりに取り組みました。



鯨が浜では、自然観察やオンラインでつないで他校の生徒に海の様子などを伝えたりしました。生き物の多さや岩場が多いなど国府海岸との違いに驚いていました。



アクアスの校外学習では、これまでの学習で出てきた疑問を学芸員さんに質問しました。「鯨が浜と国府海岸はどうしてこんなに違うのか」「アクアスのシロイルカはどこからどうやって連れてきたのか」「ペンギン歯舌と猫の舌は関係あるの」などについて答えていただき、驚く生徒たちでした。



ふりかえり

成果

- 体験的な学習に意欲的に取り組み、海の自然や生き物の様子が場所によって違うことに気づき、その理由についてアクアスの方に質問する様子が見られた。
- 海のすばらしさとともに、環境の変化や身近なごみの問題が関係していることを学び、海を守るために自分が生活の中でできそうなことを考えることができた。
- 中継や発表場面では、自分の役割を果たすだけでなく、お互いに声を掛け合いながら協力して発表を成功させようとする様子が多く見られた。

課題

- △他校との合同学習にはICTの活用が不可欠だが、Wi-Fiや機器の問題が多くある。
- △活動量が多いので生徒の負担は大きかったかもしれない。

今後に向けて

- ・ごみの問題について繰り返し触れているので、12月にごみ処理場、リサイクル施設の見学、3学期には3Rの学習を設定し、自然を守るための具体的な行動を体験したり自分で考えたりできるようにしていきたい。

② 中2グループ



生活単元学習

「地域のいいね👍伝えるンジャー」パート3

単元の主題 ESDのカテゴリー：みんなが住みやすい町にしよう（消費）

浜田市・江津市ってどんな町？

キャッチコピーをつくって特産品をPRしよう

多様性

いろいろな特産品・よさがある
いろいろな考え・表現の仕方がある

連携性

協力して町づくりをしている
みんなで力をあわせるとよりよくなる

単元の目標

- (知 力) **地域について新たに知ったことやこれまでの学習について、自分の考えをもち、伝たいことを明確にする**
- (協働力) **目的を意識して友達と考えを伝え合いながら、よりよい方法でPRしたり発表したりする**

コミュニケーションを行う力

活動内容



第1次 くわしく調べよう

自分が「いいね」と思う特産品（もの・こと）

第2次 PR方法を考えよう

浜田市役所の方の話（地域の魅力・課題、課題のための取組など）
PRポスターづくり（アドバイスしあって改善）

キャッチコピー・デザインの工夫
（四コマ漫画、短歌など）

第3次 地域の「いいね」・学習したことを伝えよう（PR）

報告会準備、地域の学習報告会・保護者への発表
地域へのポスター掲示（市役所・特産品販売所など）

話す・
動画・音声



パート2

思考を深めるための手立て

- ・単元の主題や目標（教科等）、教科等の見方・考え方を踏まえた**目指す姿を明確にする**
- ・**資料の提示**や**発問**を工夫する
- ・考えを広げたり深めたりするために**対話**や**I C T活用**を取り入れる
- ・生徒の**よさを生かした、実態に応じた学び方**ができるようにする（学習課題・方法・教材）

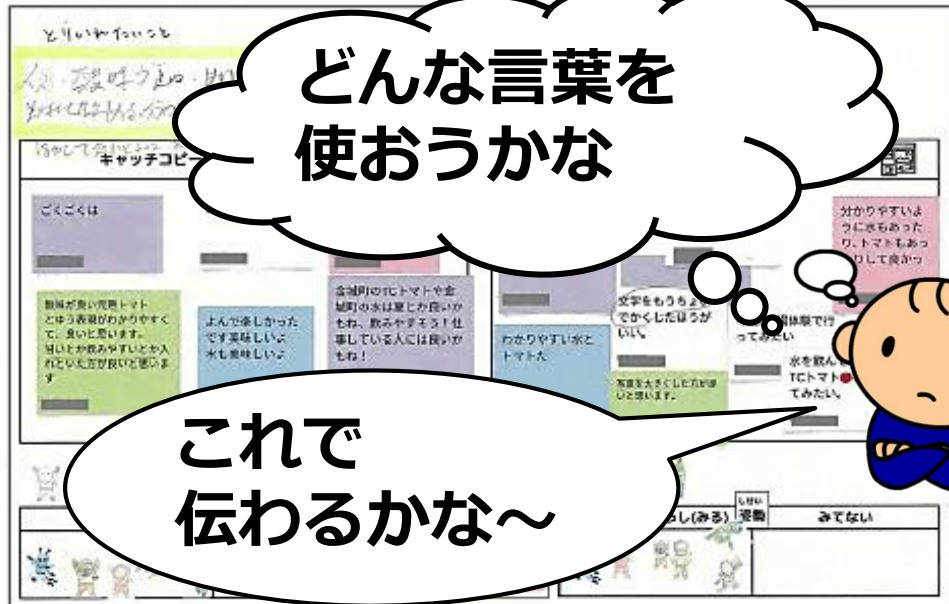


ポスター(自分で考えたもの)



これを伝えたい

アドバイスシート(友達からのアドバイス・感想)



これで伝わるかな~

授業シート(アドバイス)



アドバイス

声・姿勢

完成ポスター(アドバイスを受けて再考したもの)



授業シート(報告会準備)



原稿

発表方法

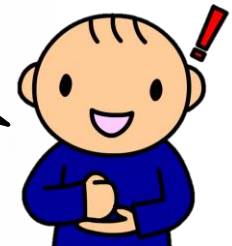
皆からのアドバイスを受けて、もっとこうの方が良いと考えることができたこと。

もっと金城町の魅力を全てに発信したい。

地域のよさを伝えたい

地域愛伝わる素敵な原稿が完成したこと

地域の良さが伝わると嬉しいです。明後日の発表で、これまでの学習を次世代へ受け継ぐ思いでやっていきたいと思っています。



副題 ～ ESDを通じて児童生徒の思考を深める手立てを考える ～

「子供たちが考える」ために考えること
(本日のポイント)

主題・題材

- 「**考えがい**」(考える値打ち)がある
- 「**考えられる**」(考えやすい)がある

+2にせ?
どの程度?

教材・教科

意図・考えさせ

ポイントに対して、ICTが持つ可能性
(本日のキーワード)

- ① 意欲的 「**したくなる**」
- ② 直感的 「**わかる**」
- ③ 共有 「**つながる**」「**つなげる**」
- ④ 知る 「**ひろげる**」「**ふかめる**」

どういう視点?
何に注目?
場面 場面

117119111-相互的

← その場にいる
者が持つ

成果

- **キーワードの提示**、ワークシートの**項目立て**、生徒の言動と**つなぐ言葉がけ**
→ 「いろいろある」「力を合わせて」の考え方で課題に気付く
- ワークシートで**必要な項目や手順の提示**、教員とのやりとり
→ 考えの整理、端的にまとめる
- **アドバイスをもらう活動** → キャッチコピー・デザインを再考、工夫。
- **Canva**を使用 → 自分の考えや思いを**豊かに表現**。
友達の**学習の過程を共有**し、「自分もやってみたい」
すぐに共有・限られた時間で**多くの考えに触れる**
実態差がある中でも**互いに分かりやすく伝える**。
- **特産品PRの消費**、**地域の活性化へのつながりのおさえ**
→ ESDの視点でのPRの目的を意識。考え続ける。
- **発表や報告会で評価**
→ 「伝わった」「地域の活性化につながった」という実感、意欲の保持
- **題材（PRするもの）や方法を限定しない** → 自己決定・得意なこと、意欲

課題

- △友達の発表に対し、体験していないものへのアドバイスが出ない。
→思考するための体験や具体物の提示。
- △アドバイスをするとき、理由があるとよかった。
→目指す（各教科等の見方・考え方を働かせる）姿の明確化。
- △ICTがあることで入力による負荷があったかもしれない。
→ICTを使う・使わなくてよい場面の整理。個に応じた支援。
- △授業をとおして気付いたことを自覚できていたかどうか。
→学習を通して分かったことや学んだこと、「気付き」に気付けるような、ふりかえりの方法・内容。

③ 中3グループ



社協での学習



高齢者サロンにて

総合的な学習の時間

「ハッピーつながるグループ パート2」

～地域の高齢者さんといっしょに

楽しめることを考えてみよう～

単元の主題 ESDのカテゴリー：みんなが住みやすい町にしよう（福祉）

高齢者さんへのアンケートをもとに、
一緒に楽しめることを考え、やってみよう！

多様性

高齢者の暮らし方
自分たちとは違う生活

公平性

年齢に関係なく誰もが等しく幸
せに暮らすことができる

相互性

かかわりあって生きている

単元の目標

- (知・技) **地域の高齢者のニーズを知る。**
- (思・判・表) **集めた情報を手がかりに、話し合いながら企画する。**
- (学・人) **自分の役割に責任をもって取り組む。**

コミュニケーションを行う力

他者と協力する
態度

進んで参加する
態度

活動内容

- 第1次 **1学期の交流や社協の学習、事前アンケートをもとに、高齢者の方々に対して自分たちのできることを考え、企画する。**
- 第2次 **係に分かれ、準備をする。**
- 第3次 **しまや高齢者サロンの方と交流する。
(イントロクイズ・手遊び歌・絵本の読み聞かせなど)**
- 第4次 **学習のまとめ、今後できることを考える。**

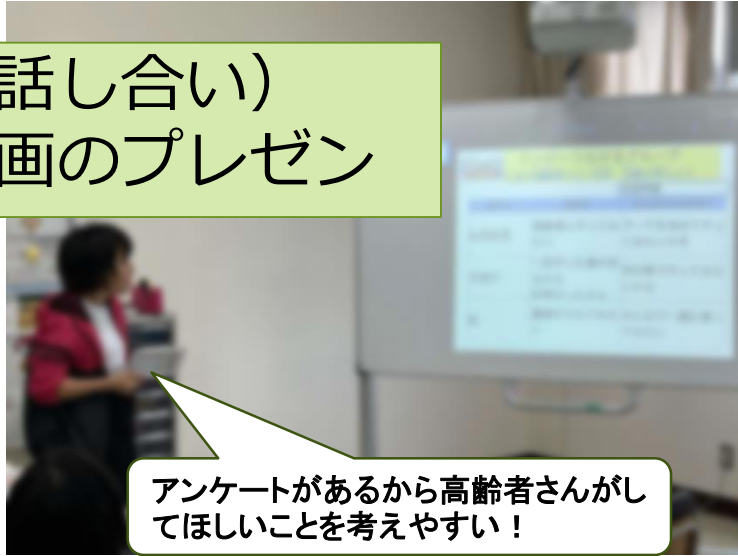
実践1からの改善点

思考を深めるための手立て

- ・ サロンの方々に**事前アンケート**を行うことで、高齢者の方々の**ニーズを知る**。
- ・ 企画時に**条件や時間、アンケート結果**を確認することで、**方向性を確認する**。
- ・ 話し合いの時にしたい**企画とその理由**を**キーノートでプレゼン**することで、自分の意見をまとめて伝える場を設定したり、他の生徒もイメージを持ちやすくしたりする。
- ・ 同じ場所で**2回取り組む**ことで、見通しをもち、**1回目の改善をしやすい**にする。
- ・ **事後アンケート**を実施し、**自己有用感**がもてるようにする。
- ・ 企画の担当をそれぞれの**得意な**ことを活かせるようにする。
- ・ **ESDの視点**を、生徒に分かりやすい言葉で授業シートに明記し、毎回振り返りで問題に向き合うための**気づきをチェック**する。

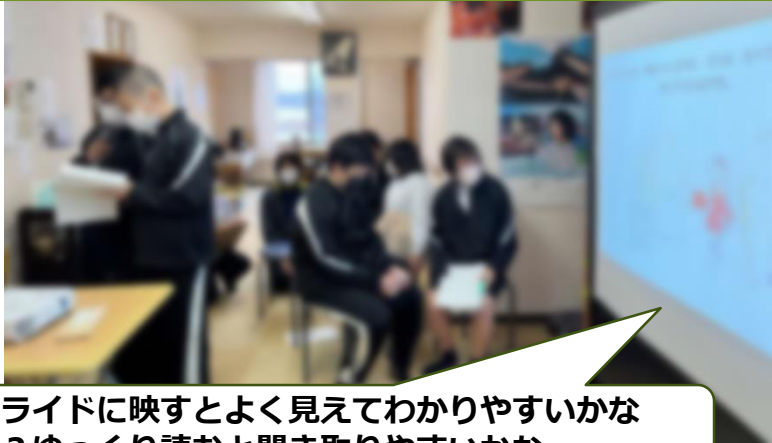
活動の様子

(話し合い)
企画のプレゼン



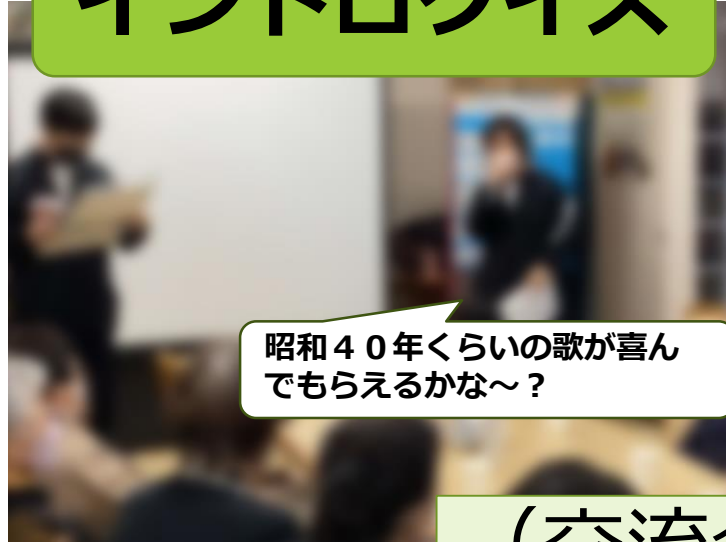
アンケートがあるから高齢者さんがしてほしいことを考えやすい!

絵本の読み聞かせ



スライドに映すとよく見えてわかりやすいかな
~? ゆっくり読むと聞き取りやすいかな。

イントロクイズ



昭和40年くらいの歌が喜んでもらえるかな~?

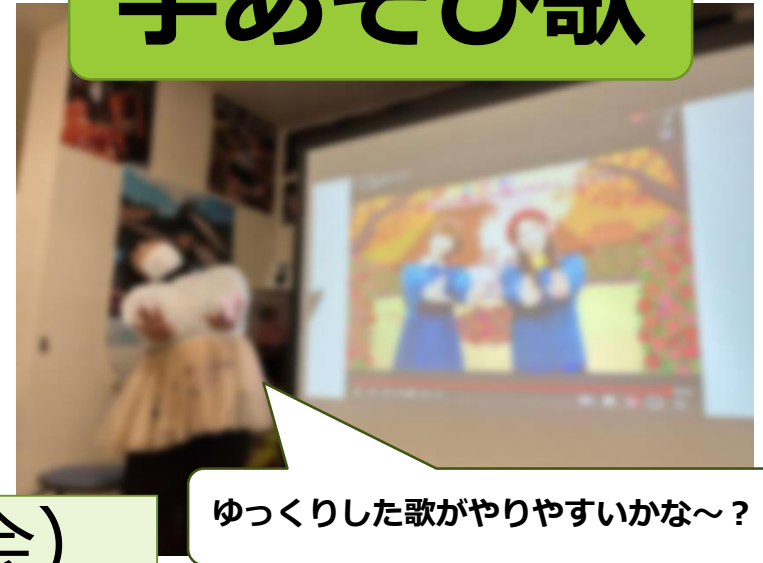
(交流会)

しりとり



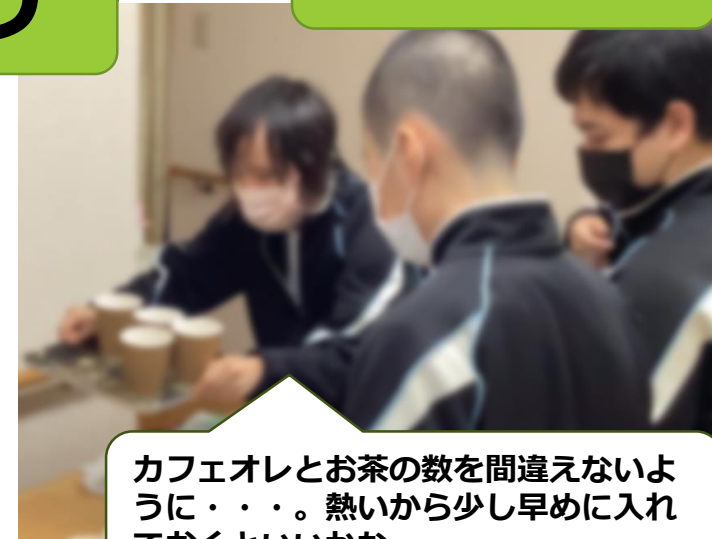
しりとりは頭の体操にいいって聞いたからぜひやってみよう!

手あそび歌



ゆっくりした歌がやりやすいかな~?

お茶



カフェオレとお茶の数を間違えないように・・・熱いから少し早めに入れておくといいかな~

ふりかえり

成果

- 事前に社協で話を聞いたりアンケートをとったりし、同じ場所で二回目の交流をすることで地域の高齢者のニーズを知ることができた。(知技)
- 企画の条件を確認し、キーノートを使って企画の理由をプレゼンすることによって、よりよい話し合いのための比較検討ができた。(思判表)
- 自分がやりたい企画を得意なことを活かして担当することで主体的に準備や運営ができた。(学・人)

課題

- △より自分事として考えるために打ち合わせの段階から生徒自身も参加するとよかった。
- △居住地であれば、自分の住む地域とつながりがもてた。
- △単元を通してESDの構成概念の視点で振り返りの方法や授業シートの改善が必要であった。

今後に向けて

- ・日ごろから「ゆるやかな見守り」ができる地域を作る担い手となれるよう、社協で教えてもらったことを学習に取り入れる。
- ・より自分のこととして考えられるよう、生徒の居住地とのつながりも視野に入れる。

研究主題

**「地域とともに児童生徒の深い学びを支える授業づくり」
～ ESDを通じて児童生徒の思考を深める手立てを考える ～**

研究仮説

SDG's に関わる活動の指導案を作成する過程の中で、期待する児童生徒の気付きや思考を見える化し、それを引き出すための手立てを工夫することで、児童生徒が課題意識をもち、解決に向けて思考を深める姿を育むことができるであろう。

主体的・対話的で深い学びの実現

授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
● 学ぶことに興味や関心を持つ	● 既習事項を振り返る

- 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる
- 知識を相互に関連付けてより深く理解する
- 情報を精査して考えを形成する
- 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

- 資質・能力を焦点化する
(つけたい力を明確にする)
- 単元や各授業の目標を把握する
- ねらいを達成した子供の姿を具体化する
- 教材の価値を把握する
- 単元及び各時間の計画を立てる
- 目標の達成状況を評価する

深い学び	● 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる	● 資質・能力を焦点化する (つけたい力を明確にする)
	● 知識を相互に関連付けてより深く理解する	● 単元や各授業の目標を把握する
	● 情報を精査して考えを形成する	● ねらいを達成した子供の姿を具体化する
	● 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう	● 教材の価値を把握する
		● 単元及び各時間の計画を立てる
		● 目標の達成状況を評価する

＊ 構成概念

＊ 重視する能力・態度

＊ 各教科等の「見方・考え方」

研究主題

「地域とともに児童生徒の深い学びを支える授業づくり」
～ ESDを通じて児童生徒の思考を深める手立てを考える ～

研究仮説

SDG's に関わる活動の指導案を作成する過程の中で、期待する児童生徒の気付きや思考を見える化し、それを引き出すための手立てを工夫することで、児童生徒が課題意識をもち、解決に向けて思考を深める姿を育むことができるであろう。

「考えがい」がある

成果

「考えられる」
がある

- * 目的の明確化（生徒目線） = 単元の主題
- * 授業の展開のパターン化（体験・発信etc）
- * 考える手順や視点を示すワークシートや思考ツールの活用
- * 考えを広げたり深めたりするための対話
- * 個性・よさを生かした学習活動
- * 実態に応じた学び方
(学習課題、教材、方法)

ICTの活用

- ・ 実態に応じた表現方法（表出）
- ・ 考えの見える化（理解）
- ・ 空間が違ってもつながれる

課題

「考えられる」
がある

* 活動設定（体験・具体物）

* 学習成果のふりかえり（ふりかえり方法・授業シート様式検討）

「気付く」「考える」「わかる」→「深まる」

👉 ICTの活用

使う・使わなくてよい場面の整理、個に応じた支援

👉 自立活動の指導との関連

どうすれば環境をよりよく調整しながら学べるか

自走できる学習者

中学部
地域のためにできることを
考え、気持ちや考えを伝え
合いながら、友だちや地域
の人と協力して取り組む。

研究主題

「地域とともに児童生徒の深い学びを支える授業づくり」

～ ESDを通じて児童生徒の思考を深める手立てを考える ～

各教科等の見方・考え方

ESDの視点

(構成概念、重視する能力・態度)



考えるための
技法

発問

学習の
ふりかえり

協働